

## 文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	三重県松阪市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	松阪市の文化遺産を活かした地域活性化計画		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>松阪市教育ビジョン及び松阪市文化芸術振興条例（平成20年4月施行）を踏まえ、下記の事業を実施する。</p> <p>1 松阪の文化を知り育む豪商検定事業（平成30年度～33年度）  「豪商の町松阪」の特色ある地域文化を次世代へと保存・継承するため下記取組を実施する。  （1）平成28年度までに蓄積した実績をもとに、地域に郷土愛を持った若い世代を育成するとともに、地域文化の魅力を市内外に発信することを目的とした「豪商検定」の仕組みを設立する。  （2）「豪商検定」の仕組みにより育まれた人材による、各教育機関および、一般市民にむけた出前講座やボランティアガイドの仕組みづくりとその運営を行う。このことにより市民自らが地域の文化を守り継承するための一員を担うサイクル作りを行い、地域の文化継承を担う仕組みを完成する。</p> <p>2 射和民俗文化記録作成事業（平成29年度）  射和地区の民俗文化を記録し、公開する。また、郷土学習教材として活用する。</p> <p>3 射和祇園祭に使用する神輿の修理及び修理過程公開事業（平成29年度）  射和地区の無形民俗文化財である祇園祭の用具修理を通して、地元の文化遺産への理解を深める。</p>			
6 実施体制			
<p>本事業計画に係る全体の企画・調整や、各補助事業に係る指導等は以下の担当課が行う。  松阪市産業文化部文化課：各補助事業における文化財の取扱等に関する指導・調整等  また、事業の実施は次の団体による。  松阪市文化遺産普及活用実行委員会  構成団体（NPO法人Mブリッジ、射和祇園祭保存会、松阪市伝統文化継承の会、松阪華道青雅流いづみ会、松阪市装道和装礼法子ども教室実行委員会）</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 28,925 千円	平成29年度申請額： 10,394 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>市民の地域文化に関する知識や理解が向上することにより地域への愛着が高まり、また、情報発信することで、地域振興や観光振興が活性化することが期待できる。  松阪市が平成28年度に実施した市民アンケートでは「若い世代への文化継承」が課題の一つであり、解決に向けた効果的な取組となることが期待できる。市民自らが事業の中心的な担い手として自立・自走的な取組を続けることにより、世代を超えた文化の継承が期待できる。  また、松阪市の総合計画に記載のある観光レクリエーション入込客数300万人に貢献できる。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			
事業概要：			
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	松阪市産業文化部文化課		

## 7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	重要文化財旧長谷川家住宅の入込客数			関連事業 :	①	
目標値 1 :	平成 28 年度 16,000 人 ⇒ 平成 33 年度 20,000 人					
設定根拠 1 :	平成31年度までは平成28年度入込客数伸び率見込み8%を参考に設定。32年度以降は諸条件を考慮し現状維持を設定。					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 2 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 2 :	地域の祭礼行事等への入込客数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	射和文化祭の祭礼展示会場への来場者数			関連事業 :	②、③	
目標値 2 :	平成 28 年度 452 人 ⇒ 平成 33 年度 650 人					
設定根拠 2 :	平成30年度までは平成27年度から28年度の伸び率20%を参考に設定。31年度以降は地区の人口を考慮して現状維持を設定。					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3 :	地域に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	市内小中学生を対象とした検定の得点率			関連事業 :	①	
目標値 3 :	平成 29 年度 60 % ⇒ 平成 33 年度 80 %					
設定根拠 3 :	29年度が初年度であるため60%と想定、事業の継続により80%を目指す。検定を通じた知識の定着によって地域に誇りを感じる住民の割合を増やしたい。					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
%	%	%	%	%	%	

